（参考資料２）水稲害虫の発生とＩＰＭ技術（広島県中部）

**中干し**

田植期

分げつ期

幼穂形成期

最高分げつ期

成熟期

育苗期

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | ４月 | ５月 | ６月 | ７月出穂期 | ８月 | ９月 |
| 水稲の生育 | 標高：３００ｍ品種：コシヒカリ |  |  |  |  |  |
| 管理内容 | 塩水選種子消毒立枯病防除育苗箱施薬穂ばらみ期防除傾穂期防除カメムシ多発生または常発地の場合出穂期防除 | 判断 |  |  | 判断 | 収穫 |
| 病害虫の発生・ＩＰＭ技術 | イネシンガレセンチュウ | イネミズゾウムシイネミズゾウムシ | フタオビコヤガ |  | 斑点米カメムシ |  |
| 【管理上の注意点】種子更新種子消毒を行う（温湯or薬剤）《ウンカ類の見分け方》＊調べる株元付近を数回たたき，水面や板に落ちた虫を見分けて数える。真横セジロウンカトビイロウンカ斜め後ろヒメトビウンカ水面での後脚の出し方 | 【要防除水準】越冬後成虫飛び込み盛期（育苗箱施用田）成虫1頭/株以上【管理上の注意点】深水，掛け流しを避ける。⇒浅水，間断かんがいにする。 | 【管理上の注意点】育苗箱施薬を実施（薬剤選定）。日陰地や，大豆作付跡等葉色の濃い生育のほ場で発生に注意 | 判断 | 【管理上の注意点】水稲出穂２～３週間前に草刈を行う【要防除水準】カスミカメムシ類主体の地域 その他加害種が主体の地域乳熟期4頭以上 　　　乳熟期2頭以上＊捕虫網による乳熟期の20回振りすくい取りの1ヵ所平均虫数 |  |
|  |  | 飛来セジロウンカ |  |  |  |
|  |  | セジロウンカ |  |  |  |
|  |  | 【要防除水準】幼穂形成期～穂ばらみ期１０～２０頭/株以上【管理上の注意点】発生予察情報に注意し，適期に防除する。判断 | 飛来 | 判断 |
|  |  | イネドロオイムシ | トビイロウンカ |  |  |
|

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 凡例 |  |  |
|  | 年により発生が変動し，被害が大きい | 飛来状況により発生が変動し，被害が大きい |
|  | 毎年発生がある | - |
|  | 年により発生が変動する | 飛来状況により発生が変動する |
|  | 常発地で発生 | - |
|  | 発生状況に注意 | 発生状況に注意 |
|  |  |
|  |  |  |

○○○○○○○○○○＊図の長さや位置は主要病害虫の発生時期を示している。 | 【要防除水準】６月中下旬ごろ（幼虫ふ化最盛期）発生幼虫数12頭/株以上【管理上の注意点】育苗箱施薬を実施。多発地域ではクロラントラニリプロール剤を使用する飛来害虫 |  | 飛来 | 【管理上の注意点】発生予察情報に注意し，適期に防除する。【要防除水準】飛来後第二世代幼虫期５頭/株以上 |  |
|  |  |  | コブノメイガ |  |  |
|  |  | イネ科雑草を除草する。　　　　　　　出穂期防除をする。ほ場を早めに耕起する。　　　　　　　育苗場所周辺を除草する。　□イネ刈後に耕起する。一部飛来ヒメトビウンカ | 【要防除水準】発蛾最盛期の５～７日後被害株率２０％以上＊上～中位の被害葉を数える。【管理上の注意点】育苗箱施薬を実施（薬剤選定）。葉色が濃くならないように肥培管理を適切におこなう。 | 注．農薬登録は令和２年１月10日現在 |  |